

【暗唱聖句】 マタイ 28:20「あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

【日曜日・あなたの盾】

創世記 15:1「これらのことの後で、主の言葉が幻の中でアブラムに臨んだ。「恐れるな、アブラムよ。わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは非常に大きいであろう。」

神様自ら、私はあなたの盾であると言われたのはここだけです。アブラムと一対一の関係において直接、「恐れるな、アブラムよ。わたしはあなたの盾である」と言われたわけです。盾とは、敵から飛んでくる矢から身を守るものです。神様はアブラムの敵の前に立ちほだかり、あらゆる攻撃から守って下さると約束してくださったのです。アブラムに対して何を恐れる必要はないと言われたのでしょうか。おそらく 14 章で捕虜となっていたロトとその家族を救出した仕返しを恐れたのでしょう。もしそのことで命を落とすようなことがあれば、神様の約束の成就を見ることもできなくなってしまいます。このことを恐れたのでしょうか。しかし、アブラムは不安を消すことができず、「わが神、主よ。わたしに何をくださるというのですか。」(創世記 15:2) と尋ねます。アブラムが神様に何かを尋ねるとするのは、実はここが初めてです。これまで黙って信じて従ってきたのに、恐れが神様に尋ねさせたのです。「何を下さるというのですか」。この答えはすでに語られていて、それは子どもであり、子孫であり、彼らが暮らすための土地です。もしこの約束が成就するならば、必然的に命を失うことはないということになりますから、もう一度確かめたでしょう。また神様は、このようなアブラムの恐れを知っていたからこそ、先に「わたしはあなたの盾である」と言って力づけられたのでしょうか。

【月曜日・メシアの約束 1】

「…地上の氏族はすべてあなたによって祝福に入る」(創世記 12:3) と神様はアブラムに約束されました。アブラムとの契約は、一人息子のイサクに受け継がれ、さらにその息子のヤコブに受け継がれていきました。

創世記 28:14「あなたの子孫は大地の砂粒のように多くなり、西へ、東へ、北へ、南へと広がっていくであろう。地上の氏族はすべて、あなたとあなたの子孫によって祝福に入る」

ヤコブとの約束は、アブラムとの約束よりも、さらに壮大なものになっていますが、地上の氏族はすべて、あなたとあなたの子孫によって祝福に入る」という点は同じです。さらに、この約束は新約時代に入り、大きく広がって行きます。パウロは次のように述べています。

ガラテヤ 3:29「あなたがたは、もしキリストのものだとするなら、とりもなおさず、アブラムの子孫であり、約束による相続人です。」

この聖句からわかる通り、アブラムの祝福は血族による子孫から、キリストを信じ、キリストのものとなっている人すべての人が、霊的イスラエルとしてアブラムの子孫となり、約束の相続すなわち祝福を受け継ぐ者となりました。結局のところ、アブラムの血族であっても、それで救われるわけではありません。イエス・キリストの贖いによって救われるのです。逆に言えば、アブラムの血族であってもキリストを拒めば、相続は受け継げなくなるのです。キリストは全人類の救い主であり、アブラムは救われるすべての人の霊的祖先なのです。イスラエルは本来この約束を受け継ぎ、そのことを異邦人に証する役割があったのです。

【火曜日・メシアの約束 2】

17 世紀イングランドの作家トーマス・ブラウンは、「真の幸福を味わうためには、我々は遙か彼方の国まで旅をしなければならない。そして、私たち自身の外までも」と言いました。またローマ帝国時代の宗教家アウグスティヌスは、「人生の苦難から逃れるすべがない」と言いました。自分たちの周りにはどこにも希望はない。だから、どこか遙

かかあなたには希望を探しに行かなければならないというわけです。確かに、現実の世の中を見ていると、そのような気持ちにしばしばさせられるものです。しかし、聖書はこのような中であって驚くべき希望を与えてくれます。それはキリストが再臨され、この世の苦難が全くない、永遠の御国に連れて行ってくれるという希望です。パウロはこう述べています。

第一テサ 4:16「すなわち、合図の号令がかかり、大天使の声が聞こえて、神のラッパが鳴り響くと、主御自身が天から降って来られます。すると、キリストに結ばれて死んだ人たちが、まず最初に復活し、4:17 それから、わたしたち生き残っている者が、空中で主と出会うために、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられます。このようにして、わたしたちはいつまでも主と共にいることになります。4:18 ですから、今述べた言葉によって励まし合いなさい。」
キリストが再臨されると、キリストに結ばれて眠りついた死者は復活し、生き残っている者たちと一緒に天に引き上げられていきます。

黙示録 3:12「勝利を得る者を、わたしの神の神殿の柱にしよう。彼はもう決して外へ出ることはない。わたしはその者の上に、わたしの神の名と、わたしの神の都、すなわち、神のもとから出て天から下って来る新しいエルサレムの名、そして、わたしの新しい名を書き記そう。」

黙示録では、永遠の御国に入れば、もう二度と外に幸福を求めて出て行くことはないと言っています。

【水曜日・大きな強い国民】

創世記 46:3「神は言われた。「わたしは神、あなたの父の神である。エジプトへ下ることを恐れてはならない。わたしはあなたをそこで大いなる国民にする」

神様はヤコブに、「エジプトへ下ることを恐れてはならない。わたしはあなたをそこで大いなる国民にする」と言われました。エジプトはいわばこの世の代名詞であり、まことの神を信じず、偶像や人を神とする世界、自己中心の世界です。そのよう場所は、本来神の子たちが生きる世界ではありません。しかし、主はそこを恐れるのな、そこで大いなる国民とすると、アブラハムからの約束の成就を宣言するのです。この言葉を最後に、モーセのときまで超自然的な神様の業の記録はありません。大いなる国民とするという約束は、希望に満ちていますが、同時に長く滞在することになることをほのめかしています。しかし、これも最終的なカナンの地に導かれる一過程なのです。

出エジプト 19:5、6「今、もしわたしの声に従い、わたしの契約を守るならば、あなたたちはすべての民の間にあってわたしの宝となる…あなたたちは、わたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる…」

ここに、神様がイスラエル民族という特別な民族を起こすことを望まれた理由が書かれてあります。すなわち世界の中であって祭司的な役割をにない、聖なる国民として神様の栄光を証するためです。イスラエルが神様のご品性をあらわすことによって、他国の人々が真の神様に目を向けるようになり、最終的にはメシアなるキリストに引き寄せられることを望まれました。

【木曜日・あなたの名を高める】

創世記 12:2「わたしはあなたを大いなる国民にし、あなたを祝福し、あなたの名を高める。祝福の源となるように。」

神様はアブラハムを祝福し、他の人々の祝福の源になるために、その名を高める（有名にする）と言われました。ところで、バベルの塔を建てようとした人々は、「さあ、天まで届く塔のある町を建て、有名になろう」（創世記 11:4）と言いました。主が有名にしてくださるのと、自分で有名になろうというのではまるで違います。前者は主の栄光のためですが、後者は自分自身の栄光のためです。また、主が人を高めて下さるのは、その功績ではなく、品性、信仰、服従、謙遜、他者への愛などを見られますが、自分で名を高めようと思うものは、自分の功績、成果を追い求めます。主が私たちを高めて下さるとき謙遜になりますが、自分で自分の高めようとするとき、人は高慢になるもので

す。